

# 【参考資料】山縣市人口ビジョン・現在の状況と今年度の新たな推計について

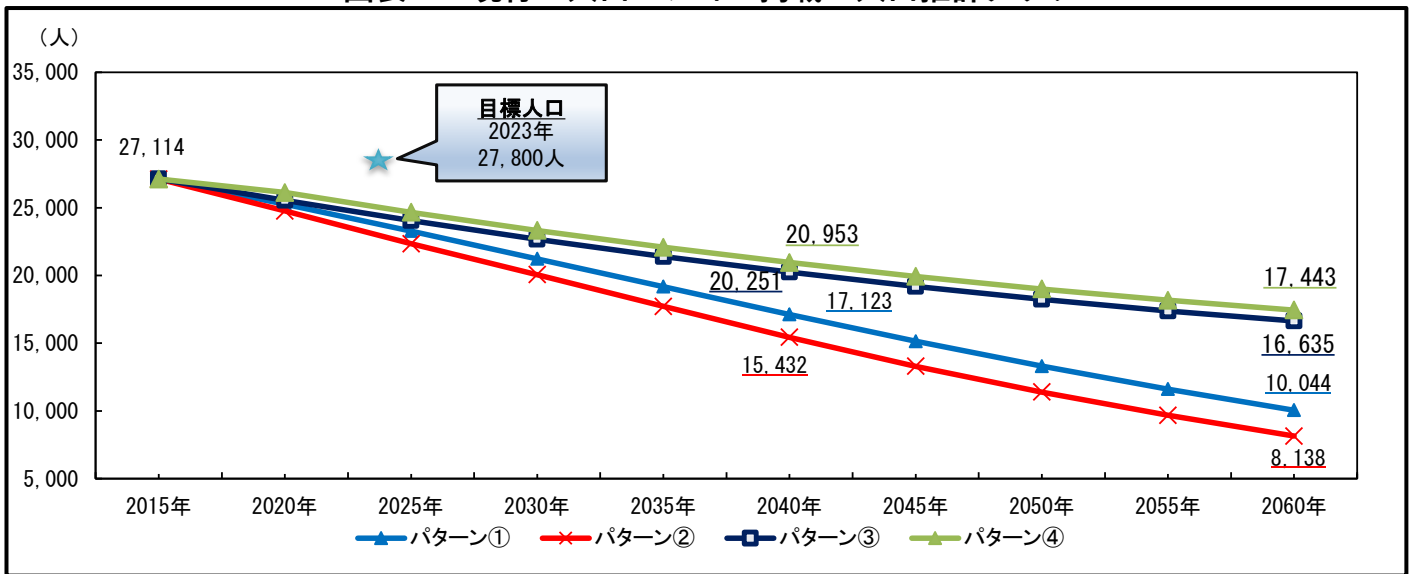
## 1. 山縣市人口ビジョン改訂版（令和2年3月）の推計人口と現状の比較について

図表1 現行人口ビジョンの人口推計データと実績値（国勢調査人口）  
：実績値はパターン1、2に類似

年	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
パターン① 社人研 <sup>※1</sup> 推計	27,114	25,261	23,277	21,226	19,169	17,123	15,139	13,303	11,605	10,044
パターン② 独自推計	27,114	24,763	22,336	20,057	17,717	15,432	13,291	11,385	9,672	8,138
パターン③ 岐阜県人口ビジョン準拠	27,114	25,542	24,053	22,675	21,401	20,251	19,193	18,230	17,373	16,635
パターン④ 山縣市人口ビジョン準拠	27,114	26,117	24,660	23,317	22,074	20,953	19,928	18,998	18,170	17,443
実績値	27,114	25,280	—	—	—	—	—	—	—	—

※国立社会保障・人口問題研究所の略称。以下「社人研」とする。

図表2 現行人口ビジョン掲載の人口推計グラフ



→現在実績値は中位推計ないし低位推計にあたる「パターン1」「パターン2」に近い推移となっており、現行計画策定時に打ち出した2023年の「目標人口」の到達は不可能とみられる。

## 2. 今年度の計画策定に基づく推計について（次頁から掲載）

今回の計画・戦略策定に当たって、2020年国勢調査の結果を踏まえ、新たにコーホート変化率法<sup>※2</sup>に基づく推計を行った。

※2 同じ期間に生まれた集団の実績人口の動勢から「変化率」を求め、それに基づき将来人口を推計する手法。

推計は以下の3種類を行った。

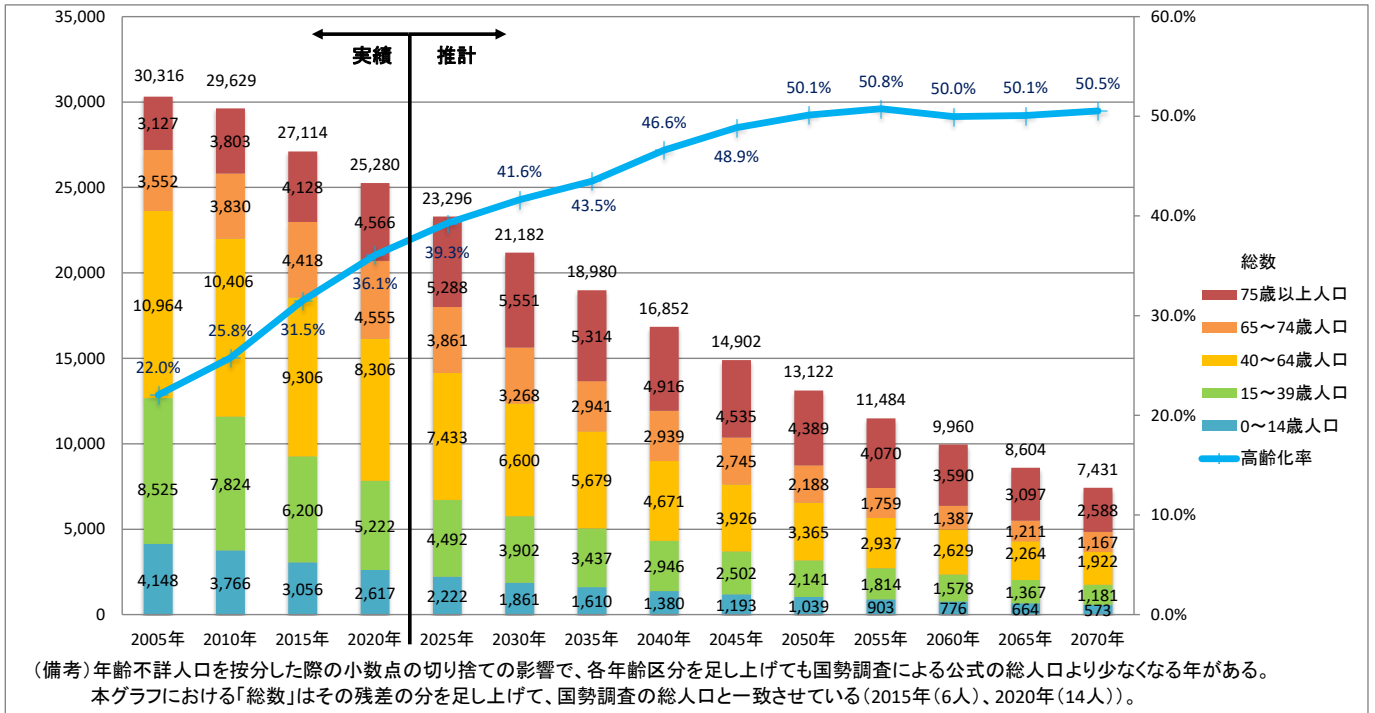
推計1 現状のコーホート変化率が今後も継続していくと仮定した推計（低位推計、悲観的なシナリオ）

推計2 概ね社人研推計の2040年の17,123人と仮定した推計（中位推計、中間的なシナリオ）

推計3 概ね山縣市目標の2040年の21,000人と仮定した推計（高位推計、楽観的なシナリオ）

→次頁から推計1～3のグラフを掲載

図表3 推計1 現状のコーホート変化率が今後も継続していくと仮定した推計  
(低位推計、悲観的なシナリオ)

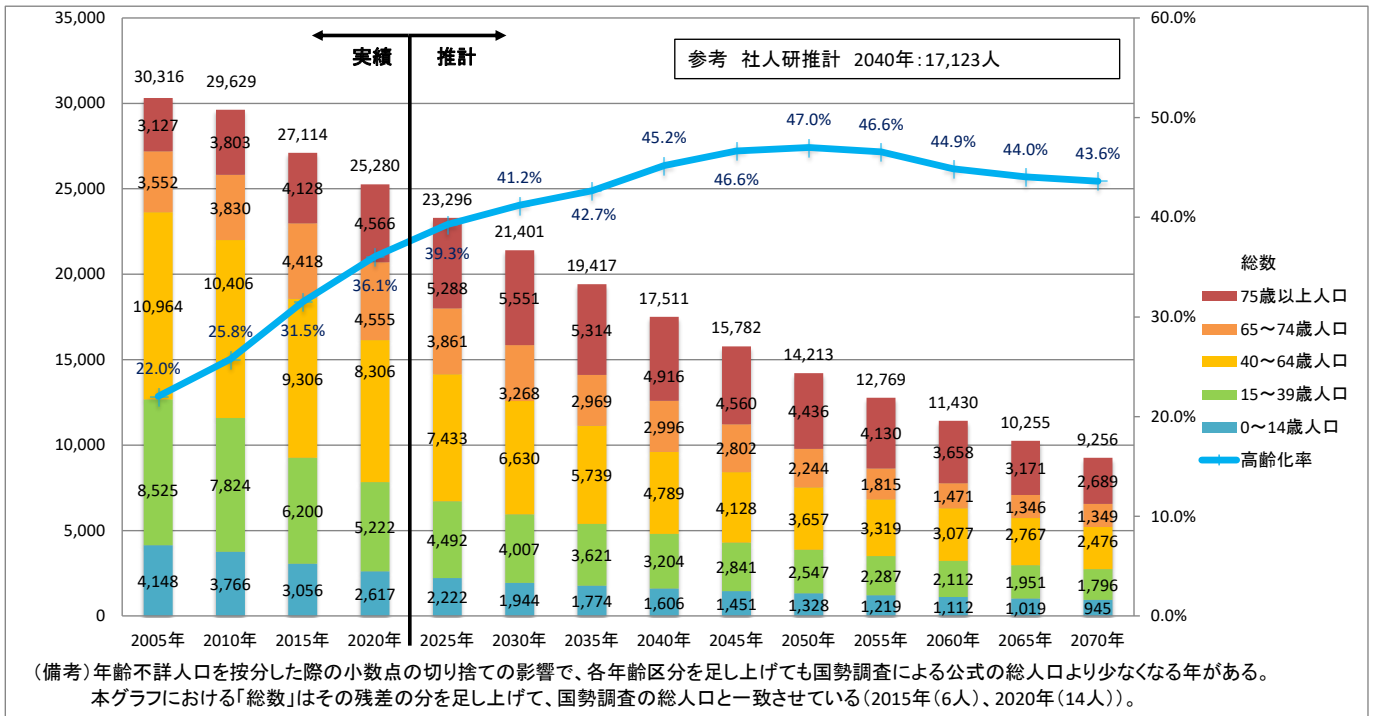


→一貫して人口が減少していき、2040年には16,852人まで減少。高齢化率は2050年に約50%に達し、その後はおおむね横ばいとなる。

図表4 推計1の旧・3町村別の人口の推移

	2020年人口	2040年人口 (対2020年比)	2060年人口 (対2020年比)
旧・高富町	16,350	11,373 (▲30.4%)	7,002 (▲57.2%)
旧・伊自良村	3,051	2,288 (▲25.0%)	1,466 (▲52.0%)
旧・美山町	5,874	3,191 (▲45.7%)	1,491 (▲74.6%)

図表5 推計2 2040年時点で社人研推計の概ね17,123人と仮定した推計  
(中位推計、中間的なシナリオ)



→一貫して人口が減少していくものの、減少幅は推計1よりやや緩やかになる。高齢化率は2050年に47%に達するが、その後は緩やかに低下していく。

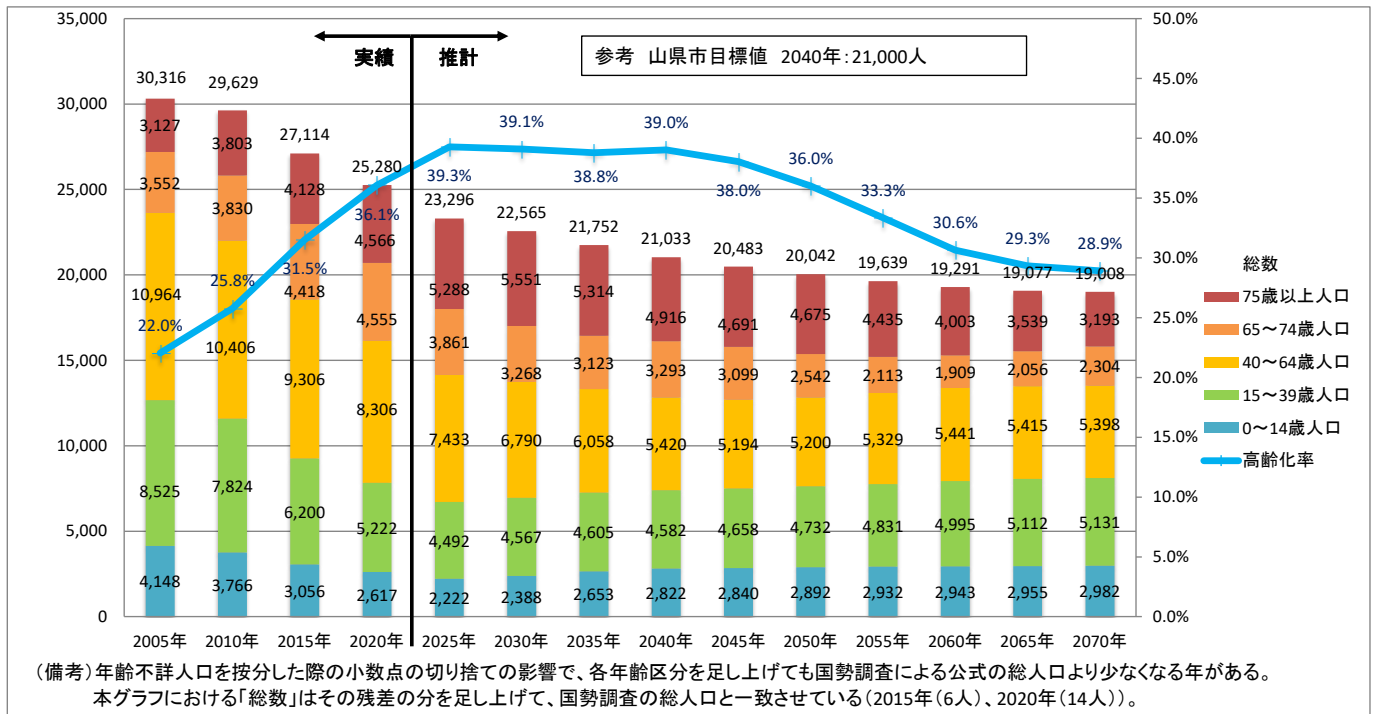
今回の推計では以下の6種類の「想定世帯」を設定したうえで、推計2においては旧・高富町、旧・伊自良村、旧・美山町のすべてにおいて2025年以降、6種類のそれぞれ1世帯ずつUIターン増加、あるいは流出防止していくと仮定した。

- ①20代前半の独身者、②20代後半の夫婦、③30代前半の夫婦+子ども1人(0-4歳)、
- ④30代後半の夫婦+こども2人(0-4歳と5-9歳)、⑤40代前半の夫婦+子ども2人(5-9歳と10-14歳)
- ⑥60代前半夫婦

図表6 推計2の旧・3町村別の人口の推移

	2020年人口	2040年人口 (対2020年比)	2060年人口 (対2020年比)
旧・高富町	16,350	11,597 (▲29.1%)	7,515 (▲54.0%)
旧・伊自良村	3,051	2,512 (▲17.7%)	1,980 (▲35.1%)
旧・美山町	5,874	3,402 (▲42.1%)	1,935 (▲67.1%)

図表7 推計3 2040年時点で概ね市目標の21,000人と仮定した推計  
(高位推計、楽観的なシナリオ)



→人口の減少は推計2よりさらに緩やかになる。高齢化率は2030年に39.1%に達し、その後は横ばいとなり、さらに2045年からは低下傾向へ入る。

なお、この推計3では、2025年以降、想定世帯について、旧3町村地域において以下のように世帯が増加していくと仮定した。

図表8 推計3の想定世帯ごとの増加数

想定世帯	旧地域名	旧・高富町 (参考データ 2020年人口※3、 16,350人)	旧・伊自良村 (参考データ 2020年人口、 3,051人)	旧・美山町 (参考データ。 2020年人口、 5,874人)
①20代前半の独身者		10世帯	3世帯	6世帯
②20代後半の夫婦		10世帯	3世帯	6世帯
③30代前半の夫婦+子ども1人(0-4歳)		10世帯	3世帯	6世帯
④30代後半の夫婦+子ども2人(0-4歳と5-9歳)		10世帯	3世帯	6世帯
⑤40代前半の夫婦+子ども2人(5-9歳と10-14歳)		10世帯	3世帯	6世帯
⑥60代前半夫婦		10世帯	3世帯	6世帯
合計		60世帯	18世帯	36世帯

言い換えるならば、2040年時点で21,000人とするためには、毎年旧3町村地域についてこの程度のUIターン世帯数、あるいは流出防止世帯数が必要、という目安となっている。

図表9 推計3の旧・3町村別の人口の推移

	2020年人口	2040年人口(対2020年比)	2060年人口(対2020年比)
旧・高富町	16,350	13,615 (▲16.7%)	12,129 (▲25.8%)
旧・伊自良村	3,051	2,960 (▲3.0%)	3,009 (▲1.4%)
旧・美山町	5,874	4,458 (▲24.1%)	4,153 (▲29.3%)